

ベトナム溶接研究会 第11回研究会 (@ハノイ・ホアラクハイテクパーク)

勝又 美穂子

グローバルD&I推進室 准教授

2024年4月26日(金)、ハノイから車で約50分程、西に位置する Hoa Lac Hi Tech Park にて第11回ベトナム溶接研究会を開催しました。今回はハノイ人民委員会が管轄する Hi Tech Incubation and Training Center (HITC)との共催による開催で、約30名のご参加がありました。今回は企業講演1件、研究講演1件、そして工場見学という構成で開催となりました。まず、HITCの Nguyen Duc Long 所長より HITC が取り組んでいるオープンラボや企業・研究所が持つ技術のマッチング、及び特許登録等の支援等についてご紹介がありました。

企業講演は日本酸素ベトナムの新井理太ハノイ支店長(対面)と、大陽日酸株式会社山梨ソリューションセンターガス利用技術部 加工技術課の金丸周平課長(オンライン)から「ベトナムにおける産業ガス事情と溶接ガス関連技術のご紹介」というタイトルで講演を頂戴しました。講演では、ベトナムにおけるガス需要及び供給に関する現状と今後の価格動向予測、同社が技術開発を行っている各種ガス及び溶接トーチ等、先端技術を用いた製品のご紹介もありました。会場からも溶接ガスに関する技術的な質問が出るなど、活発な議論となりました。

研究講演では、ハノイ工科大学の Quang Trinh Ngoc 講師より「フラックス入りアーク溶接にお

ける金属移行挙動」についてご発表頂きました。Ngoc 講師は本学にて博士号を取得し帰国後、ハノイ工科大学にて教育・研究に取り組まれています。講演後、会場からは企業が利用する場合、発表中に紹介されたどのタイプの溶接現象が望ましいのか、等の質問もあり熱心な協議が行われました。

講演会終了後は同ハイテクパーク内に位置するベトナム企業、HTMP社を訪問しました。同企業では主に金型・ダイカスト、樹脂製品等の製造を行っており、金型の製造や修繕等の一部ではレーザー溶接、TIG溶接等が使われています。最初に企業説明を受けた後、工場見学を行いました。同工場は稼働間もないこともあり、スペースや土地を含めて引き続き発展の様相が見られました。同社は80%以上の製品を日系企業向けに製造されており、ベトナム国内向けの取引は殆ど無いとのことでした。日系企業からも技術指導を受ける等、活発な活動展開が見られました。

今回は初のベトナム機関との共催となり、研究会開始後、最もベトナム企業・機関の参加が多い会となりました。溶接技術について、現地企業を交えて勉強できることは同会の趣旨でもあり、今後ますますの交流を期待します。

ご参加の皆様、開催のご支援を頂きました皆様にこの場をお借りし、改めて御礼申し上げます。



HITC での集合写真

